

安心の設計

お便りは、
メール iryoyou@yomiuri.co.jp
ファクス 03・3217・1960

乳がん全摘なら再建手術も

乳がんは、女性がかかるがんでも多い。最新の統計では年約9万5000人が診断される。一方、亡くなる人は年約1万4800人。早期に見え、適切な治療を受ければ、命を落とすことは少ない。

治療の実施状況を示した。乳がん手術の件数が140件以上の病院(該当がない県は最多の病院)を掲載した。

病院の実力

237

読売新聞は4～5月、がん診療連携拠点病院や関連学会認定施設など1074施設に2021年の治療実績などを尋ね、477施設から回答を得た(回答率44%)。一覧表には、①乳がん手術②うち乳房をすべて摘出する全摘③自家組織を使った再建手術④人工乳房を使った再建手術⑤妊娠の機能を残す

乳がんの手術は全摘のほか、がんとその周囲を切除し、残した乳房に放射線を照射する温存療法がある。全摘した乳房を再建する手術は、患者のおなかや背中にある筋肉や脂肪など自家組織を使う方法と、シリコン製の人工乳房を使う方法がある。自家組織の再建は、自然な仕上がり期待できるが、組織を切除した部分に傷ができる。一方、人工乳房はまず組織拡張器を入



人工乳房を使った再建手術の流れ

れ、少しずつ胸の皮膚を伸ばしてから入れ替える。合併症の早期発見のため定期的な検診が必要だ。形成外科医から、それぞれの特徴をよく聞いて選びたい。

近年、薬物治療の選択肢が増えている。がんのタイプや再発リスクに応じ、抗がん剤やホルモン剤、分子標的薬などを使い分ける。抗がん剤の副作用の一つに、卵巣機能の低下がある。治療中に月経が止まり、そのまま閉経する患者も少ない。

抗がん剤前に 妊娠の機能残す治療

次回(8月17日予定)は

大腸がん

変異を持つ「遺伝性乳がん卵巣がん症候群(HBOC)」の診療も進む。20年4月、乳がんと卵巣がん患者を対象に、HBOCの検査や、未発症の乳房や卵巣を切除する手術が公的医療保険で認められた。

HBOCの遺伝子変異は親から子に2分の1の確率で受け継がれる。検査結果によっては、血のつながった家族や親族にも影響が及ぶ。検査前後に、遺伝の専門医らによる「遺伝カウンセリング」が求められる。

がん研有明病院(東京)乳腺センター長の野真司さんは「病状だけでなく、患者さんの年齢や価値観も治療法を決める大切なポイントです。納得して治療に臨むために、医師に希望をしっかり伝えてほしい」と話している。(安藤奈々)

■全ての回答医療機関の情報はヨミドクターに

回答した全医療機関の治療実績などは、読売新聞の医療・健康サイト「ヨミドクター」の「病院の実力」に掲載予定です。

また、過去の調査結果も掲載しています。詳しくは<https://yomidr.yomiuri.co.jp/>へ。



※「病院の実力 2022総合編」(読売新聞医療部編) 本紙連載企画「病院の実力」の最新データを一冊にまとめました。前立腺・食道・婦人科・頭頸部(とうけいぶ)がん、心臓病、血管の病気、首の病気、腰の病気、関節リウマチなど、がんを中心に幅広いテーマを扱っています。掲載施設数は延べ5172です。アナウンサーの笠井信輔さん、タレントの青木さやかさんの闘病体験談も。お求めは書店、読売新聞販売店で。(読売新聞社 税込み1000円)



「国・」は国立病院機構、「JCHO」は地域医療機能推進機構、「セ」はセンター、「ク」はクリニック、「ー」は無回答または不明。